

第3回福祉用具専門相談員研究大会 開催報告書

第3回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会

第3回福祉用具専門相談員研究大会概要

- 【開催日】 令和4年6月16日（木）
- 【大会テーマ】 福祉用具の未来につながる専門性の追求
～P D C Aサイクルの推進は福祉用具の適合が鍵～
- 【場所】 ニッショーホール（東京都港区東新橋1-1-19）
※オンライン併用
- 【主催】 第3回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会
- 【共催】 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
一般社団法人日本福祉用具供給協会
- 【大会長】 岩元 文雄（一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会 理事長）
- 【副大会長】 小野木 孝二（一般社団法人日本福祉用具供給協会 理事長）
- 【大会概要】 特別講演1題・口述発表36題
- 【参加者数】 1227名（現地参加237名、オンライン参加990名）
- 【後援】 厚生労働省、東京都福祉保健局

（一社）回復期リハビリテーション病棟協会、（公社）関西シルバーサービス協会、（一社）こうしゅくゼロ推進協議会、国際医療福祉大学大学院、姿勢・活動ケア研究会、（一社）シルバーサービス振興会、（公社）全国国民健康保険診療施設協議会、（一社）全国デイ・ケア協会、全国福祉用具相談・研修機関協議会、（公社）全国老人福祉施設協議会、（公社）全国老人保健施設協会、（公財）テクノエイド協会、（特非）東京都介護支援専門員研究協議会、（一社）ナチュラルハートフルケアネットワーク、（公社）日本医師会、（一社）日本介護支援専門員協会、（公社）日本介護福祉士会、（一社）日本義肢協会、（公社）日本義肢装具士協会、（一社）日本車椅子シーティング協会、（一財）日本車椅子シーティング財団、（一社）日本ケアマネジメント学会、（一社）日本言語聴覚士協会、（一社）日本在宅介護協会、（一社）日本作業療法士協会、（公社）日本社会福祉士会、（一社）日本褥瘡学会、（一社）日本生活支援工学会、（一社）日本ノーリフト協会、（一社）日本福祉用具・生活支援用具協会、（一社）日本福祉用具評価センター、（公財）日本訪問看護財団、（公社）日本理学療法士協会、（公社）日本リハビリテーション医学会、（特非）日本リハビリテーション看護学会、（一社）日本リハビリテーション工学協会、（一社）日本リハビリテーション病院・施設協会、福祉用具プランナー研究ネットワーク

※50音順

第3回福祉用具専門相談員研究大会 開催報告

「福祉用具の未来につながる専門性の追求～PDCAサイクルの推進は福祉用具の適合が鍵～」

令和4年6月16日（木）、天候にも恵まれ第3回福祉用具専門相談員研究大会を開催いたしました。

開催に向けて、計画と準備を進めている段階におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響は、まだまだ予断を許さない状況が続いておりましたが、研究大会開催にあたりまして、感染対策を行ったうえでランチョンセミナーやメーカー展示など、現地参加者の募集を行いつつ、オンライン参加を併用しての開催となりました。結果として、現地開催のみであった第1回研究大会のご参加348名に対して、第2回はオンライン併用開催で912名の方々にご参加をいただき、第3回はこれを上回る1227名のご参加をいただき盛会のうちに終えることができました。

開会にあたり、岩元大会長からは「感染対策と社会経済活動との両立を念頭に、会場での福祉用具展示や、ランチョンセミナーなど新たな企画にも取り組んだ」とWithコロナの時代にあった研究大会へ発展させていくことについて挨拶がありました。

そして、来賓を代表して厚生労働省老健局高齢者支援課長の須藤明彦様よりご祝辞を賜りました。

続く特別講演では、上智大学総合人間学部社会福祉学科教授であり元厚生労働省老健局振興課長の香取照幸様より「制度設計者が語る、2040年の介護～」をテーマにご講演いただき、持続可能な社会保障制度の在り方という大きな視点から福祉用具専門相談員の専門性向上の必要性について分かりやすくお教えいただきました。

午後からは3つの会場に分かれて口述発表がそれぞれ実施されました。

第一会場ではテーマ2「福祉用具安全利用に向けた取り組み」を東島弘子座長（国際医療福祉大学大学院福祉工学分野教授）にお務めいただき7演題の発表が行われ、その後、テーマ1「PDCAサイクルの推進」を河口青児座長（福岡医健・スポーツ専門学校副校長・元厚生労働省老健局振興課福祉用具・住宅改修指導官）にお務めいただき7演題の発表が行われました。

第二会場では、テーマ3「福祉用具メーカーとの取り組み」を内田正剛氏（熊本詫麻台リハビリテーション病院地域づくりセンターセンター長）にお勤めいただき6演題の発表が行われ、テーマ4「地域、多職種連携、事業所の取り組み」では田中紘太氏（株式会社マロー・サウンズ・カンパニー）にお勤めいただき8演題の発表が行われました。

第三会場では、テーマ5「経験3年未満相談員の福祉用具導入事例」を木村太郎氏（株式会社トーカイ）と湯脇稔氏（株式会社カクイックスウィング）が共同で務め8演題の発表が行われました。その後、当協会及び全国福祉用具専門相談員協会が過去に実施した老健事業の報告を実施しました。

全ての演題発表が終了した後、第一会場においてシンポジウムが開催され、6名の座長がシンポジストを、コーディネーターを小野木孝二副大会長が務めました。シンポジウムでは、それぞれ担当された演題発表の総括に始まり、第4回大会に向けた提言やエールをいただきました。

最後に閉会式では、第4回大会の大会長を務める小野木副大会長が、第3回大会が無事終了したことに対する御礼と、第4回大会の予告及び抱負を述べて第3回福祉用具専門相談員研究大会は幕を閉じました。

第3回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【開会式】

11:00～11:40

(第一会場)

開会挨拶 岩元 文雄 大会長



来賓挨拶 厚生労働省老健局高齢者支援課長 須藤 明彦 様

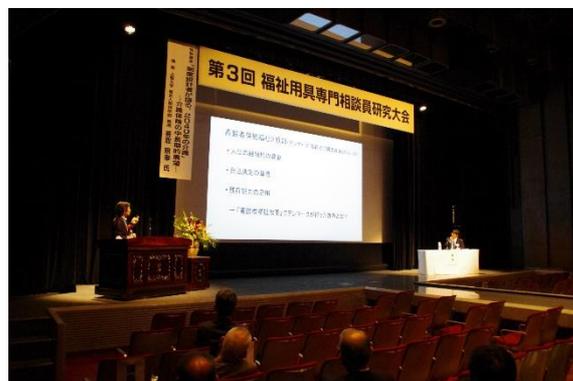


【特別講演】

11:40～12:20

(第一会場)

講師 上智大学総合人間学部社会福祉学科教授 香取 照幸 様
演題 「制度設計者が語る、2040年の社会保障」



第3回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【福祉用具安全利用に向けた取り組み】

13:30~14:40

(第一会場)

座長：国際医療福祉大学大学院福祉工学分野 教授 東畠 弘子 氏



【口述発表】 テーマ1：PDCAサイクルの推進

15:10~16:20

(第一会場)

座長：福岡医健・スポーツ専門学校 副校長 河川 青児 氏



【口述発表】 テーマ3：福祉用具メーカーとの取り組み

13:20~14:50

(第二会場)

座長：熊本詫麻台リハビリテーション センター長 内田 正剛 氏



第2回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【口述発表】テーマ4：地域、多職種連携、事業所の取り組み 13：20～14：30

(第二会場)

座長：株式会社マロー・サウンズ・カンパニー 代表取締役 田中 紘太氏



【口述発表】テーマ5：経験3年未満相談員の福祉用具導入事例 13：30～14：50

(第三会場)

座長：株式会社トーカイ 木村 太郎氏・株式会社カクイックスウィング 湯脇 稔氏

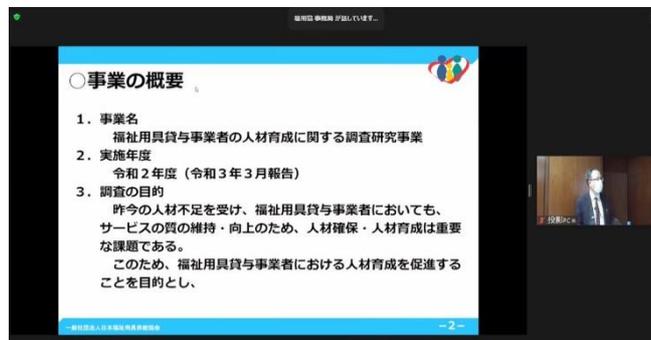


【事業報告】 老健事業報告

15：10～16：10

(第三会場)

報告者：一般社団法人日本福祉用具供給協会
一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会



第3回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【シンポジウム】

16：40～17：20

(第一会場)

コーディネーター：小野木孝二副大会長

シンポジスト：河口座長、東島座長、内田座長、田中座長、木村座長、湯脇座長



【閉会式】

17：20～17：30

(第一会場)

閉会挨拶 小野木孝二副大会長



【ランチョンセミナー】演題：人生の最期まで食べる幸せを支えるために 12：30～13：10

(第二会場)

講師：NPO法人 口から食べる幸せを守る会 理事長 小山 珠美氏



【参加者交流会】

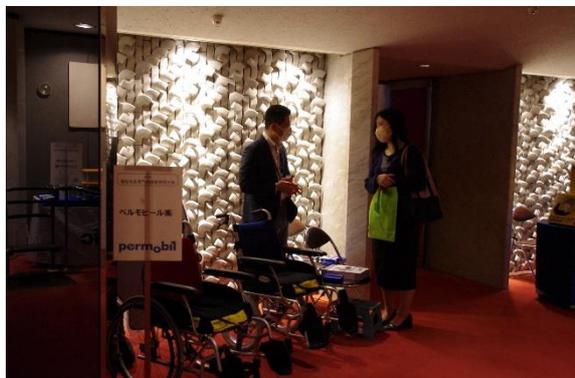
17:40~18:40

老健事業報告

(第三会場)

報告者：一般社団法人日本福祉用具供給協会
一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会





第3回 福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

テーマ1【PDCAサイクルの推進】 座長：河川 青児 氏

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	小笠原 紀子	株式会社ヤマシタ	社内での専門職同行の試み（作業療法士とのコラボによる、より適切な提案でのその人らしい暮らしの実現にむけて）	5
2	宮本 雄大	株式会社ヤマシタ	自立に向けたPDCAと多職種協働	5
3	舘崎 卓也	株式会社かんきょう仙台支店	PDCAサイクルの質の向上が利用者・家族の笑顔にも繋がる。 (P・D・C・Aそれぞれのシーン毎の質を上げていくことで、利用者・家族の生活を支える一員となる)	5
4	福田 友和	株式会社柴橋商会	福祉用具専門相談員と訪問リハ・通所リハとの連携を通じたPDCAサイクルの実施	6
5	畠山 浩 北嶋 慎也	エイジライフ株式会社	PDCAサイクルの推進 目標設定の仕方によるバーセルインデックス値、変化の違い	6
6	岩崎 隆盛	株式会社カクイックスウィング	PDCAサイクルの場面別に行った福祉用具適合のための取り組み(更なる専門性の追求に繋がる視点や気づき)	6
7	石井 周平	株式会社トーカイ	在宅復帰後の課題の変化と環境整備の対応	6

テーマ2【福祉用具安全利用に向けた取り組み】 座長：東島 弘子 氏

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	篠村 優太郎	株式会社マルベリー	福祉用具安全利用に向けた取り組み（メンテナンス・モニタリング業務から得た成果）	7
2	野元 香苗	株式会社ヤマシタ	退院前担当者会議における住宅環境情報の共有と重要性について	7
3	東條 仁	株式会社ポート・リハビリサービス	定期モニタリング時のメンテナンスの重要性（事故を未然に防ぐためのメンテナンス）	7
4	大塚 洋三郎 大森 雄也 富田 健一	株式会社ヤマシタ	歩容解析アプリ「トルト」を活用した事業所の取り組み～福祉用具貸与事業者のフレイル予防活動・福祉用具モニタリングの質向上に向けて～	7
5	穴戸 一馬	株式会社同仁社	福祉用具安全利用に向けた取り組み	8
6	秋 嘉徳	株式会社カクイックスウィング	福祉用具サービスにおけるオンライン活用と利用安全の促進（離島で暮らす人々に支えられて育むICT化の取組について）	8
7	稲嶺 秀一郎	サトウ株式会社	福祉用具安全利用に向けた取り組み	8

テーマ3【福祉用具メーカーとの連携・協働】 座長：内田 正剛 氏

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	今田 豊	パラマウントベッド株式会社	介護度別の福祉用具利用者像と福祉用具利用ニーズの研究 - 特殊寝台を中心に -	9
2	武田 和也	株式会社同仁社	福祉用具メーカーとの連携と、居宅介護支援事業所の繋がり	9
3	藪根 達哉	株式会社同仁社	コロナ禍における移動型プレゼンテーション	9
4	新井 宏昌	ケアウェル安心株式会社	介護のABC（福祉用具に関する専門的知識） (千葉県市原市津地区にて実施した「福祉用具啓発」に関する講演)	10
5	梅北 勇大	株式会社カクイックスウィング	床ずれ発生リスク判定法（OHスケール）を活用した床ずれ防止用具選定根拠の見える化と、その成果	10
6	奥ノ 翔	株式会社トーカイ	800人の定量調査から見えた歩行器（車）の利用によるADLとQOLの変化	10

第3回 福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

テーマ4【地域、多職種連携、事業所の取り組み】 田中 紘太 氏

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	八木 里那	株式会社マルベリー	都市部における福祉用具啓発活動（社会福祉法人との連携の事例より）	11
2	勝田 由美子	一般社団法人ワイズ住環境研究所	福祉住環境整備における福祉用具専門相談員のアセスメントスキルについて	11
3	小島 みさお	NPO 法人日本コンチネンス協会	認知症を有する在宅要介護高齢者の紙おむつの利用にみる専門職の意識と実態 ～福祉用具専門相談員と介護支援専門員のアンケート調査より～	11
4	壽浅 賢二	合同会社 彩	福祉用具貸与事業所による住宅改修の実態と意識	12
5	片山 準平	株式会社アイルズ	理学療法士として、福祉用具を通したりハビリテーションの提供～医療、介護のプロフェッショナルたちとの連携も含めて～	12
6	竹内 裕貴	株式会社八神製作所	事業所間で連携を取りながら在宅生活再開に向けて住環境整備を行った事例	12
7	石川 裕樹	株式会社八神製作所	電動カート導入までの多職種連携	12
8	長岡 美里	株式会社タマツ	地域包括システムにおける、チームアプローチがもたらす福祉用具選定の質向上について	13

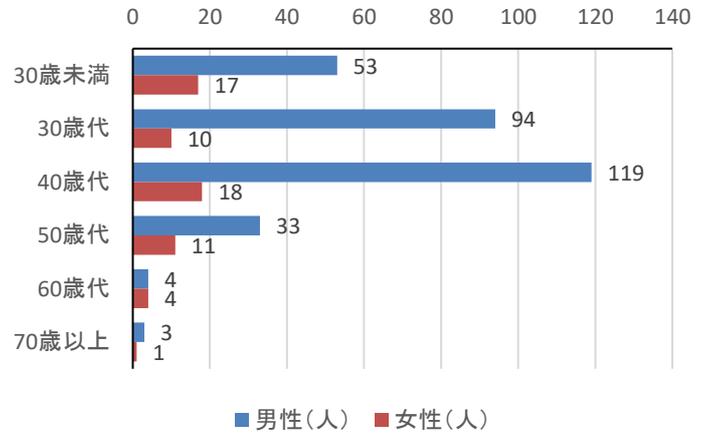
テーマ5【経験3年未満相談員の福祉用具導入事例】 座長：木村 太郎 氏・湯脇 稔 氏

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	杉山 ジョイ	株式会社ヤマシタ	地域的特性を踏まえた屋外手すりレンタルによる外出支援（120件の事例からの検証）	14
2	河野 純一郎	横尾器械株式会社	余命宣告を受け、自宅療養生活を支援するために適切な福祉用具の導入	14
3	藤定 力也	株式会社ウィードメディカル	軸椎歯突起骨折による入院、退院後の福祉用具による支援	14
4	安井 康平	株式会社トップコーポレーション	利用者の想いと相談員としての取り組み～ゆとりある生活の実現にむけて～	15
5	木下 寛崇	四国医療サービス株式会社	外出を実現する福祉用具を活用した住環境整備	15
6	川畑 理貴	フランスベッド株式会社	新たな機能を有した福祉用具の導入事例	15
7	濱洲 龍也	株式会社カクイックスウィング	眼鏡式通信機器・ARスマートグラスを利用した熟練者による遠隔支援（経験不足を補い、より良いアセスメントに繋げるための試み）	15
8	辻井 泉穂 松井 渚々子	株式会社ライフ・テクノサービス	移乗や体位変換期時の負担軽減についての福祉用具導入事例	16

※当日の発表順は全てのテーマにおいて現在調整中です。

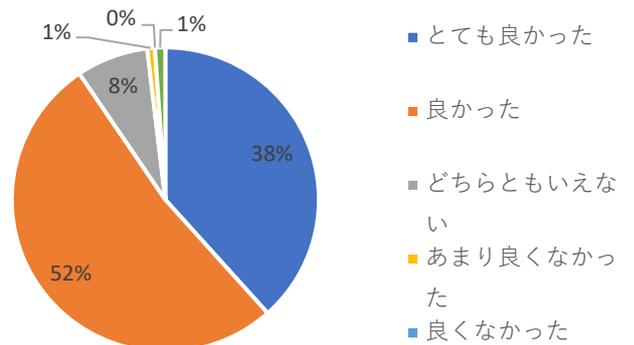
1. 基本属性について

	男性 (人)	女性 (人)	その他 (人)	総計 (人)	構成比
30歳未満	53	17	0	70	18.9%
30歳代	94	10	1	105	28.4%
40歳代	119	18	0	137	37.0%
50歳代	33	11	1	45	12.2%
60歳代	4	4	0	8	2.2%
70歳以上	3	1	1	5	1.4%
総計	306	61	3	370	100.0%
構成比	82.7%	16.5%	0.8%	100.0%	



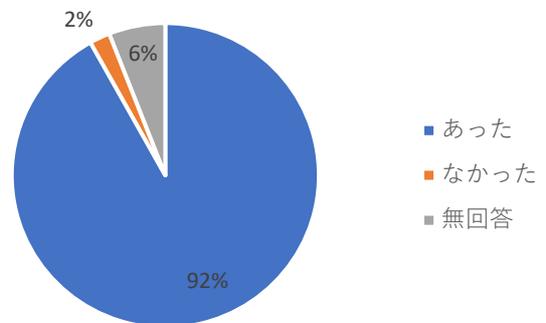
2. 全体の感想をお願いします

	人数	構成比
とても良かった	142	38.4%
良かった	193	52.2%
どちらともいえない	28	7.6%
あまり良くなかった	3	0.8%
良くなかった	0	0.0%
無回答	4	1.1%
総計	370	100.0%



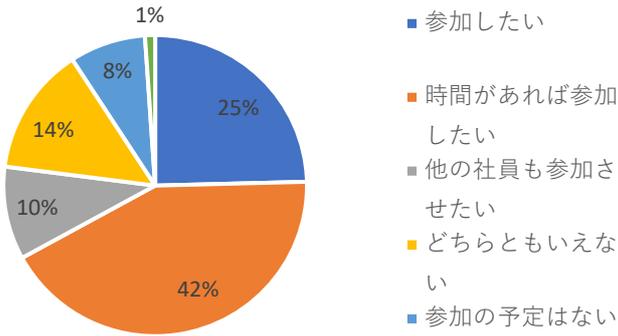
3. 今大会の発表は、参考になった点はありましたか？

	人数	構成比
あった	340	91.9%
なかった	8	2.2%
無回答	22	5.9%
総計	370	100.0%



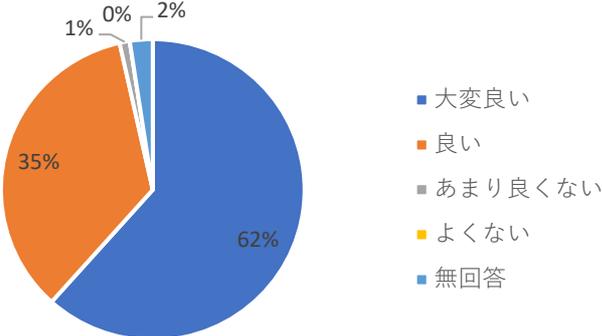
4. 来年の研究大会の参加について

	人数	構成比
参加したい	91	24.6%
時間があれば参加したい	157	42.4%
他の社員も参加させたい	37	10.0%
どちらともいえない	51	13.8%
参加の予定はない	30	8.1%
無回答	4	1.1%
総計	370	100.0%



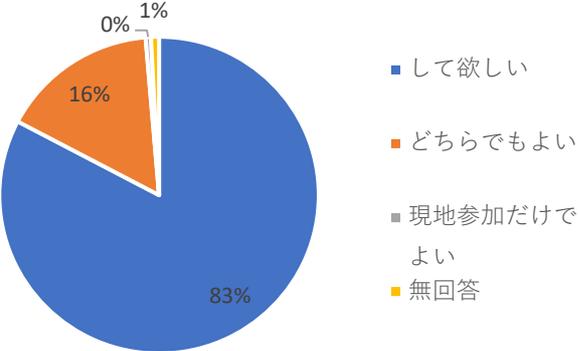
5. Web併用型の開催方法について

	人数	構成比
大変良い	228	61.6%
良い	129	34.9%
あまり良くない	4	1.1%
よくない	0	0.0%
無回答	9	2.4%
総計	370	100.0%



6. 次回以降もWeb併用型の開催をしてほしいと思いますか？

	人数	構成比
して欲しい	306	82.7%
どちらでもよい	59	15.9%
現地参加だけでよい	2	0.5%
無回答	3	0.8%
総計	370	100.0%



その他ご意見など（自由記述）

回答	件数
参考になってよかった	17
発表時間が短い	5
オンライン併用開催が良かった	6
スケジュールが窮屈だった	4
アーカイブ配信を利用する	3
当日案内や資料送付を早くしてほしい	2
質問時間が短い	2
メーカー展示が良かった	2
現地の誘導が良かった	2
手持ちマイクとの距離による音量が大小があった	1
WEB上での途中入室時、どの演目なのかがわからない	1
現地参加者にも視聴用URLを送ってほしい（AM現地、PMオンライン）	1
その他	11
総計	57

※自由記述をカテゴリ化して集計。お礼等の記述は含めない。

次回開催に向けての検討事項

- ・ 発表時間
- ・ 質問時間
- ・ 発表テーマ間の移動時間
- ・ マイクの種類（ハンドマイクorピンマイク）
- ・ WEB上の講演中の演目表示
- ・ 抄録集、案内の発送時期
- ・ 現地参加者への視聴用URLの送付

第3回福祉用具専門相談員研究大会開催

／第3回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会

第3回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会は6月16日（木）、ニッショーホール（東京都港区）で、3回目となる研究大会を開催する。今回のテーマは『福祉用具の未来につながる専門性の追求～PDCAサイクルの推進は福祉用具の適合が鍵～』。

本大会はオンライン併用での開催で、相談員のレベルアップや新たな気付き、そして専門知識の更なる習得等を見据え、広く参加者を募っている。



問合せ先／ふくせん事務局 TEL:03-5418-7700／日福協事務局 TEL:03-6721-5222

2022.3月福祉介護テクノプラス「第3回福祉用具専門相談員研究大会開催」

● あらすじ ●
2021年6月に「第2回福祉用具専門相談員研究大会」をオンライン併用で開催した。研究大会は、「福祉用具活用の更なる深化」を根拠に基づいた福祉用具の活用」というメインテーマの下に5つの演題テーマを設定し、合計で30件の演題発表が行われ、900名を超える多くの方々にご参加いただいた。この研究大会開催の目的、第2回研究大会のテーマに込めた思い、発表いただいた事例の一部紹介、今後に向けての展望などを通して、今回の研究大会につなげたい。

● Verification at home ~ Experience the research competition ~

Koji Onogi
The Association of Care Goods Providers

1. 研究大会開催の目的

介護保険における福祉用具サービスとは、単にモノを提供するのではなく、アセスメントやモニタリング等を行いながら、福祉用具専門相談員の専門性に基づいて福祉用具の機能を深く探求し続けていくことを目的に福祉用具専門相談員研究大会を開催することとし、第2回研究大会を2021年6月21日に日本教育会館（東京都千代田区）にて、オンラインを併用してのハイブリッドで開催する運びとなりました。

第2回大会の参加者は、会場66名、オンライン846名の合計912名という大変多くのご参加をいただく大会にすることができました。コロナ前であった第1回大会は現地のみで348名のご参加をいただきましたが、これを大きく上回る結果となりました。これは、第1回大会を踏まえての第2回に対する皆様の期待や、コロナ禍によってオンライン参加という新たな選択肢が設定されたことに対する参加のしやすさが評価されたものと考えております。また、時間の関係で視聴できなかったプログラムについては、参加者に対して後日視聴できる仕組みを整えたことも評価されました。



在宅での検証〜研究大会を経験して〜

一般社団法人日本福祉用具供給協会

理事長 小野木 孝二



●おのき こうじ ●京都大学工学部卒業、米国コロンビア大学経営学部大学院修士、1977年に株式会社トリーカイン社、リースキンフランチャイズチェーン本部、管理部門の統括を経て1998年に同社代表取締役社長就任、現在に至る。福祉用具のレンタルを行うシルバー事業や調剤薬局事業の立ち上げを行い、医療介護を多面的に支える総合ヘルスケア企業としての体制を整備。2015年に一般社団法人日本福祉用具供給協会理事長就任。



図1 大会長挨拶（筆者）

今後の研究大会の中でオンラインの必要性、またメリットを十分に体感できた大会となりました。

2. 第2回研究大会 テーマに込めた思い

第2回研究大会のメインテーマは「福祉用具活用の更なる深化と根拠に基づいた福祉用具の活用」と設定しました。

2021年4月より厚生労働省の指導の下、科学的介護情報システム（LIFE）が特に介護施設等で求められるようになりました。ご利用者の自立に資する介護サービスが求められる中、ご利用者の状況をいっような形で数値化することが求められるようになってきました。LIFEの活用は制度上、介護報酬の加算に紐づいているところであり、一方、福祉用具サービスにはこの加算との紐づけがないため、すぐにLIFEへの登録やフィードバックが必要な状況にはありません。しかし、福祉用具サービスも介護サービスの一つとして、サービスの効果を表現していくために、科学的な根

拠が今後一層必要となってくることには変わりありません。このことを広くご理解いただく場にしたという思いから、このようなメインテーマを設定いたしました。

このメインテーマの下、演題発表の小テーマとして5つのテーマを設定しました。具体的には、テーマ1として「福祉用具利用効果の追求」、テーマ2として「地域、多職種連携の取り組み」、テーマ3として「事業所としての取り組み」、テーマ4として「経験3年未満相談員の福祉用具導入事例」、テーマ5として「新型コロナウイルス感染症に対応する取り組み」となります。特にテーマ4の「経験3年未満相談員の福祉用具導入事例」の趣旨は、新人専門相談員にとって、この研究大会の事例が難しすぎて参加できないということがないように、今後より多くの方たちが参加しやすい大会にしたいという配慮の下で設定しました。

3. 第2回研究大会の概要

当日は来賓として、厚生労働省老健局高



図2 来賓挨拶 厚生労働省老健局高齢者支援課須藤明彦課長

高齢者支援課長の須藤明彦様にお越しいただき、「これからは健康寿命の延伸が第一であり、そのための地域で支える地域包括ケアシステムを通じて利用者の自立に資するサービスがより求められる。」というお話をいただきました。これこそまさに福祉用具が果たすことのできる自立支援の役割であると考えます。

次に、特別講演として、厚生労働省元事務次官の蒲原基道様より、「高齢者の地域包括ケアと地域共生社会」福祉用具の活用を含めて」をテーマに講演いただきました。特に福祉用具は「物」の提供ではなく「機能」の提供であることを強調されました。高齢者生活を支えていくために、福祉用具専門相談員は、人によるサービスと連携しながら、福祉用具の機能を十分に発揮させるためのモニタリングを実施していくことも重要であるご指摘いただきました。

その後、各演題の発表として、テーマ1「福祉用具利用効果の追求」の9演題、テーマ2「地域、多職種連携の取り組み」の7演題、テーマ3「事業所としての取り組み」の3演題、テーマ4「経験3年未満相談員

の福祉用具導入事例」の4演題、テーマ5「新型コロナウイルス感染症に対応する取り組み」の7演題、合計30演題の発表が行われました。発表のあと、シンポジウム、閉会式へと続いていきました。

4. 実際の発表から

メインテーマである「福祉用具活用の更なる深化」根拠に基づいた福祉用具の活用」に一番近い演題テーマはテーマ1「福祉用具利用効果の追求」にあたるかと思えますので、発表のあった9演題の中から、エビデンスという考え方に特に近かった2つの演題について紹介します。

1つ目の演題紹介は、「バーセルインデックスによる福祉用具導入を含むサービス全般の効果測定の試行」福祉用具専門相談員としての専門性のアピール」というものです。発表では、バーセルインデックスの基礎知識、同じADL指標である「FIM」との違い、バーセルインデックスの利点や欠点、そして実際に福祉用具の導入効果を数値化した事例が紹介され、今後の展開や

特別講演では、福祉用具は「物」ではなく「機能」の提供であることが強調されました。



図3 特別講演 蒲原基道先生

課題の考察でまとめられていました。事例は、特に寝起きが不便で困っている男性が、夜中にトイレへ行くために奥様の手を借りている状況であったところに、特殊寝台を導入することで解決を図ったというもので、その際にバーセルインデックスを使用して導入前は移乗が10点であったところ、導入後は15点になったというものでした。ここでは、ADL指標であるバーセルインデックスの点数改善が見られましたが、奥様の介護負担が軽減できた点も大きなポイントになると思います。バーセルインデックスは、日差変動の大きな方などは採点が難しいなどの課題はあるものの、サービス効果の数値化が可能になったことに加え、他職種との連携のための共通言語が増える取り組みでありました。

2つ目の演題紹介は、「車いすが使用者の「自分らしい生活」に与える心理的影響」福祉機器心理評価スケール(PIADS)を用いた心理効果の検証」というものです。発表では、一定の条件を満たした車いすの利用者50名を対象にPIADSという福祉機器心理評価スケールを用いて聞き取り調査を実施し、その数値を様々な統計手法を用いて分析し、その結果とともに課題を考察する形でまとめられていました。分析結果としては、車いすを使用し始める時と比べて使用者の心理状態にプラスの影響を与えた、というものでした。具体的には、「安心感」、「活動に参加できる」、「とまどいが減った」という項目で特に大きな効果が確認され、一方では「有能性」や「自尊心」といった項目でネガティブな心理が確認されたというものでした。そして、今後はこのような数値の精度をより高めていくと共に、心理的影響の効果をより高めていくために、福祉用具専門相談員が一層積極的にご利用者に関わっていくことが必要であるとまとめられていました。心理的影響というものを数値化し、今後のサービス提供のあり方に活かしていくことは大切なことであり、継続していく必要性を感じるものでした。

これらのような発表事例は、先にも述べました科学的介護という考え方に即したものであり、今後継続し一層深化させていくことが必要であると感じました。



図4 シンポジウム風景

5. 今後に向けて

プログラムの最後に、それぞれのテーマをご担当いただいた座長の先生方によるシンポジウムが開催され、各テーマの総括に始まり、大会テーマを通した福祉用具専門相談員への提言、第3回大会に向けた問題提起やエールをいただきました。先生方からは、第3回大会のテーマであるPDCAを念頭に、Planは福祉用具利用計画であり仮説に相当し、Checkはモニタリングであり検証に相当することから、PDCAを回すことは仮説と検証という研究そのものであり、これを繰り返すことで自立支援、介護負担軽減につなげていき、結果としてご利用者が感じておられる不自由さを少しでも解放するお手伝いをしていってほしい、また、事例発表の際にはどの部分が新しい取り組みなのか分かるようにしていったほしい、というようなご指摘を頂戴しました。

これを踏まえて、第3回研究大会は更に発展させていきたいと考えます。第3回の

大会長を務めるふくせん岩元理事長は、メインテーマを「福祉用具の未来につながる専門性の追求」PDCAサイクルの推進は福祉用具の適合が鍵」と設定しました。現在、厚生労働省では、福祉用具貸与種目のあり方検討が進められているところです。私たちは、貸与の制度を守っていくために、貸与であることの良さを今後も継続して、しっかりと表現していくことが大切であると考えます。そして、貸与であることの良さは、PDCAそのものであり、このPDCAサイクルをしっかりと回すための各社の様々な取り組みや成功事例が数多く発表されることを心より期待いたします。

大会名…第3回福祉用具専門相談員研究大会
 テーマ…福祉用具の未来につながる専門性の追求
 PDCAサイクルの推進は福祉用具の適合が鍵

開催日…2022年6月16日(木)

会場…ニッショーホール(東京都港区新

橋1-1-19) ※オンライン併用

大会長…岩元 文雄(全国福祉用具専門相

談員協会 理事長)

第3回大会は、PDCAサイクルをしっかりと回すための取り組みの発表を期待します。

第3回

福祉用具専門相談員 研究大会

福祉用具の未来につながる
専門性の追求

～PDCAサイクルの推進は福祉用具の適合が鍵～

日時 2022年6月16日(木) 会場 ニッショーホール

(東京都港区新橋1-1-19)

本大会は会場とオンラインの併用開催です

大会長 岩元 文雄 一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会 理事長

副大会長 小野木 孝二 一般社団法人 日本福祉用具供給協会 理事長

【特別講演】 香取 照幸氏 上智大学 総合人間科学部 社会福祉学科 教授
2002年 厚生労働省老健局振興課長
2010年 厚生労働省政策統括官(社会保障担当)

主催：第3回福祉用具専門相談員研究大会 実行委員会

共催：一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会(ふくせん)

一般社団法人 日本福祉用具供給協会(日福協)

お問い合わせ：ふくせん事務局 TEL 03-5418-7700

日福協事務局 TEL 03-6721-5222

●後援(予定)

厚生労働省、東京都保険福祉局

(一社)回復期リハビリテーション病棟協会、(公社)関西シルバーサービス協会、(一社)こうしゅくゼロ推進協議会、国際医療福祉大学大学院、姿勢活動ケア研究会、(一社)シルバーサービス振興会、(公社)全国国民健康保険診療施設協議会、(一社)全国デイ・ケア協会、全国福祉用具相談・研修機関協議会、(公社)全国老人福祉施設協議会、(公社)全国老人保健施設協議会、(公財)テクノエイド協会、(特非)東京都介護支援専門員研究協議会、(一社)ナチュラルハートフルケアネットワーク、(公社)日本医師会、(一社)日本介護支援専門員協会、(公社)日本介護福祉士会、(一社)日本義肢協会、(公社)日本義肢装具士協会、(一社)日本車椅子シーティング協会、(一財)日本車椅子シーティング財団、(一社)日本ケアマネジメント学会、(一社)日本言語聴覚士協会、(一社)日本在宅介護協会、(一社)日本作業療法士協会、(公社)日本社会福祉士会、(一社)日本褥瘡学会、(一社)日本生活支援工学会、(一社)日本ノーリフト協会、(一社)日本福祉用具・生活支援用具協会、(一社)日本福祉用具評価センター、(公財)日本訪問看護財団、(公社)日本理学療法士協会、(公社)日本リハビリテーション医学会、(特非)日本リハビリテーション看護学会、(一社)日本リハビリテーション工学協会、(一社)日本リハビリテーション病院・施設協会、福祉用具プランナー研究ネットワーク ※50音順

会場へのアクセス



●JR新橋駅「銀座口」より徒歩3分

●都営地下鉄浅草線 新橋駅「汐留1番出口」より徒歩1分

●都営地下鉄大江戸線 汐留駅 徒歩5分



●東京メトロ銀座線 新橋駅「2番出口」より徒歩2分

●新交通 ゆりかもめ 新橋駅「1C出口」徒歩3分

詳しくはWEBで

http://www.zfssk.com/sp/1912_research/



第3回福祉用具専門相談員研究大会

検索

福祉用具専門相談員研究大会

6月開催、2月末まで発表事例受付中

「第3回福祉用具専門相談員研究大会」が6月16日にニッショーホール（東京都港区）で開催される。

66人、オンライン846人の参加があり、全国の福祉用具専門相談員が学びを深め合った。

用具・住宅改修サービスが選択され、変化していく「すまいと住まい方」に適合させていくことこそが我々、福祉用具専門相談員の使命だ」と今回のテーマに込めた思いを語っている。

③福祉用具メーカーとの連携・協働④地域、多職種連携、事業所の取り組み⑤経験3年未満相談員の福祉用具導入事例（チャレンジ発表）

講演も行われる予定。参加申し込みは4月1日から開始予定。

相談員協会（ふくせん）と日本福祉用具供給協会（日福協）が共催。前回に引き続き、会場に加え、オンラインでの参加も組み合わせる。前回は会場

第3回大会のテーマは「福祉用具の未来につながる専門性の追求」P D C Aサイクルの推進は福祉用具の適合が鍵。岩元文雄大会長は、「適時・適切な福祉

当日は、①P D C Aサイクルの推進②福祉用具安全利用に向けた取り組み

2月末まで発表事例の応募をふくせんと日福協のホームページなどで受け



開催概要（ふくせんホームページ）

付けている。そのほか、厚生労働省で老健局振興課長、政策統括官（社会保障担当）、年金局長などを歴任した香取照幸氏（上智大学教授）の特別

今年16日、福祉用具専門相談員が一堂に会して様々な研究発表を行う「第3回福祉用具専門相談員研究大会」が開催される。主催は第3回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会。共催は全国福祉用具専門相談員協会（ふくせん）と日本福祉用具供給協会（日福協）。大会テーマは「福祉用具の未来につながる専門性の追求」P D C A サイクルの推進は福祉用具の適合が鍵。大会長の岩元文雄氏（ふくせん）は、福祉用具

福祉用具専門相談員研究大会 16日、第3回大会開催へ 専門性の追求がテーマ



昨年の研究大会の様子

専門相談員の使命について、地域包括ケアシステム概念を表す植木鉢の図にある「すまいと住まい方」の変化に対して、その専門性を遺憾なく発揮して適時・適切な福祉用具・住宅改修サービスを提供させていくことだ」と期待を込める。

大会テーマに沿って、P D C A サイクルの推進（座長・河口青児氏）や「福祉用具安全利用に向けた取組」（東島弘子氏）など、5つの演題別に30組の個人・チームが発表予定。特別講演は上智大学総合人間科学部社会福祉学教授の香取せん。

照幸氏。ランチオンセミナーはNPO法人から食べる幸せを守る会の小山珠美理事長が「人生の最期まで食べる幸せを支えるために」と題して行う。

開催日時は6月16日午前11時～午後5時30分。ニッショーホール（東京都港区）とオンラインで開催。参加費は会員5千円、一般1万円。申し込みは研究大会のサイトから。問い合わせ03・5418・7700（ふくせん）

第3回

福祉用具専門相談員 研究大会

福祉用具の未来につながる
専門性の追求
～PDCAサイクルの推進は福祉用具の適合が鍵～



祝辞

伊藤 たかえ（いとう たかえ）参議院議員
園田 修光（そのだ しゅうこう）参議院議員
田村 憲久（たむら のりひさ）衆議院議員
古屋 範子（ふるや のりこ）衆議院議員
(五十音順)

動画アーカイブ



開会式・特別講演

開会式	00:00:50～
特別講演	00:17:25～



テーマ2【福祉用具安全利用に向けた取り組み】 座長：東島 弘子 氏

野元 香苗	00:01:11～
穴戸 一馬	00:10:57～
東條 仁	00:20:26～
秋 嘉徳	00:29:38～
福留 秀一郎	00:40:45～
藤村 優太郎	00:50:48～
富田 健一・大塚 洋三郎・大森 雄也	01:00:58～



テーマ1【PDCAサイクルの推進】 座長：河口 青児 氏

館崎 卓也	00:01:23～
岩崎 隆盛	00:11:43～
嵐山 浩・北嶋 慎也	00:22:35～
宮本 雄大	00:33:50～
福田 友和	00:44:21～
石井 岡平	00:55:05～
小笠原 紀子	01:03:48～



シンポジウム・閉会式

シンポジウム	00:00:05~
閉会式	00:42:02~
挨拶：園田 修光 先生（参議院議員・自由民主党）	00:47:56~
挨拶：古谷 範子 先生（衆議院議員・公明党）	00:51:19~
挨拶：伊藤 孝江 先生（参議院議員・公明党）	00:53:45~



テーマ3【福祉用具メーカーとの連携・協働】 座長：内田 正剛 氏

今田 豊	00:02:14~
梅北 勇大	00:13:16~
奥ノ 翔	00:24:15~
新井 宏昌	00:34:40~
武田 和也	00:44:34~
藪根 達哉	00:53:32~



テーマ4【地域、多職種連携、事業所の取り組み】 座長：田中 紘太 氏

八木 里耶	00:01:37~
小島 みさお	00:11:29~
片山 準平	00:21:30~
勝田 由美子	00:31:05~
竹内 裕貴	00:41:39~
石川 裕樹	00:51:49~
長岡 美里	01:01:47~
壽浅 賢二	01:13:39~



テーマ5【経験3年未満相談員の福祉用具導入事例】 座長：木村 太郎 氏・湯脇 稔 氏

杉山 ジョイ	00:01:13~
木下 寛崇	00:12:42~
河野 純一郎	00:22:48~
辻井 泉穂・松井 渚々子	00:33:50~
川畑 理尚	00:44:27~
安井 康平	00:56:00~
清洲 龍也	01:05:05~
藤定 力也	01:16:36~
老健事業報告1	01:26:56~
老健事業報告2	01:45:52~
老健事業報告3	02:13:51~

第3回福祉用具専門相談員研究大会 大会組織

大会長	岩元 文雄 (全国福祉用具専門相談員協会)
副大会長	小野木 孝二 (日本福祉用具供給協会)
大会顧問	幸田 正孝 (元 厚生省事務次官)
	山内 繁 (元 国立障害者リハビリテーションセンター研究所長)

第3回福祉用具専門相談員研究大会 実行委員会

実行委員会 委員長	山下 和洋 (株式会社ヤマシタ)
倫理委員会 委員長	白澤 政和 (国際医療福祉大学大学院)
査読委員会 委員長	東畠 弘子 (国際医療福祉大学大学院)
実行委員会 委員	千葉 博 (株式会社サカイ・ヘルスケア)
	古沢 林太郎 (株式会社トーカイ)
	肥後 一也 (株式会社カクイックスウィング)
	玉利 健一郎 (株式会社カクイックスウィング)
	伊藤 広成 (日本福祉用具供給協会)
	淡路 陽子 (日本福祉用具供給協会)
	中村 一男 (全国福祉用具専門相談員協会)
	福島 伴彦 (全国福祉用具専門相談員協会)
	柳田 磨利子 (全国福祉用具専門相談員協会)
	池本 和樹 (全国福祉用具専門相談員協会)
運営協力	小林 毅 (日本医療科学大学)
顧問	酒井 博人 (総合メディカル株式会社)

次回告知

第4回 福祉用具専門相談員研究大会

持続可能な介護保険制度に向けた福祉用具サービスの役割
～福祉用具サービスにおける科学的な介護の実践～

2023年6月22日(木)開催

大会長

小野木 孝二

一般社団法人 日本福祉用具供給協会 理事長



会場

KFCホール

(国際ファッションセンター)

東京都墨田区横網一丁目6番1号

<https://www.tokyo-kfc.co.jp/>

